

# トビウオ通信 (H26 第 6 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 26 年度第 2 回日本海スルメイカ漁況予報》

平成 26 年 7 月 18 日に水産庁および独立行政法人水産総合研究センター(日本海区水産研究所)より「平成 26 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報 \*1」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

### 今後の見通し(平成 26 年 8 月~12 月)のポイント

対象魚種：スルメイカ

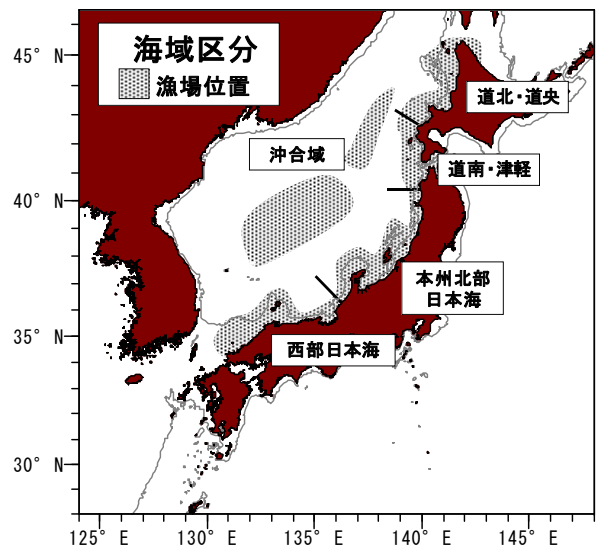
対象海域：日本海(道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域)

対象漁業：主にいか釣り漁業・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

- (1) 来遊量：前年及び近年平均を上回る。
- (2) 漁期・漁場：
  - 道北・道央及び道南・津軽では 8 月~9 月は高水温によって漁場が沖合化する。
  - 本州北部日本海及び西部日本海では近年同様に好漁場が形成されにくい。
  - 沖合域においては、8 月は大和堆周辺、9 月~10 月は北海道沖に漁場が形成される。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。

☞ 近年平均は最近 5 年間(平成 21 年~平成 25 年)の平均、前年は平成 25 年を示します。



\*1 : <http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/pdf/140718-01.pdf> (水産庁の HP)

### 日本海スルメイカ漁況予報の概要

平成 26 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報では、表 1 のとおり 5 つの海域ごとに(1)来遊量・漁況、(2)漁期・漁場、(3)魚体の大きさが予測されています。予報内容は、(A)平成 26 年 6 月下旬~7 月上旬に実施されたスルメイカ(秋季発生系群)の日本海漁場一斉調査の結果、

(B) 平成 26 年 6 月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過、(C) 太平洋側のスルメイカ (冬季発生系群) の来遊状況<sup>※2</sup>、(D) 漁期前半 (9 月まで) の海況予報<sup>※3</sup> の 4 つの情報に基づいています。

※2 : [http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/pdf/140718\\_1-01.pdf](http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/pdf/140718_1-01.pdf) (水産庁の HP)

※3 : <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr26/20140704/20140704.pdf> (独立行政法人 水産総合研究センターの HP)

表 1 平成 26 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	(1)来遊量・漁況	(2)漁期・漁場	(3)魚体の大きさ
道北・道央	宗谷～後志	近年平均及び前年を上回る	8 月～9 月は高水温によって漁場が沖合化	近年平均並み
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	近年平均及び前年を上回る	8 月～9 月は高水温によって漁場が沖合化	近年平均並み
本州北部日本海	秋田県～石川県	近年平均及び前年を上回る	今年も近年同様に漁場が形成されにくい	近年平均並み
西部日本海	福井県～長崎県	近年平均及び前年を上回る	今年も近年同様に漁場が形成されにくい	近年平均並み
沖合域	日本海中央部	近年平均及び前年を上回る	8 月は大和堆周辺、9 月～10 月は北海道沖に漁場が形成	近年平均並み

本紙では、島根県沖を含む「日本海西部」および「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については「平成 26 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報<sup>※1</sup>」をご覧ください。

#### (i) 西部日本海 (福井県～長崎県)

予報対象期間 (8～12 月) の西部日本海では、10 月以降に沖合から南下する群が漁獲対象となります。漁場一斉調査の結果では、資源量指数 (釣り機 1 台 1 時間あたりのスルメイカ採集尾数の平均値) は前年および近年平均を上回りました。しかし、今期前半まで (9 月まで) の表面水温は、かなり高めと予測されており、近年同様、好漁場が形成されにくいと予測され、10 月以降の

漁獲量は伸びないと考えられます。

(ii) 沖合域（日本海中央部）

沖合域では従来、7月～12月にかけて大和堆付近が主漁場で、水温の高い8月下旬～9月には北海道沖の武蔵堆付近にも漁場が形成されてきました。しかし、近年は8月～11月に主に北海道周辺海域に漁場が形成され、大和堆付近は11月～12月にのみ漁場が形成される年が多くなっています。漁場一斉調査の結果では、資源量指数は前年および近年平均を上回り、漁期後半に来遊する冬季発生系群の来遊量も前年並みと予想されていることから、当海域での来遊量は前年及び近年平均を上回ると予想されています。また、漁場は8月には大和堆付近、9月～10月には北海道周辺海域に漁場が形成されると予想されています。

**島根県沖での漁況**

主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型イカ釣（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。平成26年の1月～5月までの水揚量は449トンで、同期間で比べると、前年（507トン）・近年平均（405トン）並みでした（前年比88%、平年比111%）。

島根県沖での今後の漁場形成は例年10月以降になると考えられますが、日本海スルメイカ長期漁況予報でも指摘されているように近年はスルメイカが沿岸寄りに来遊しにくい傾向が強く、本県では特に平成21年以降、10月～12月の漁獲量の落ち込みが顕著です（図2）。今期も西部日本海では好漁場が形成されにくいと予想されており、島根県沖での漁況は低調に推移する可能性が高いと考えられます。

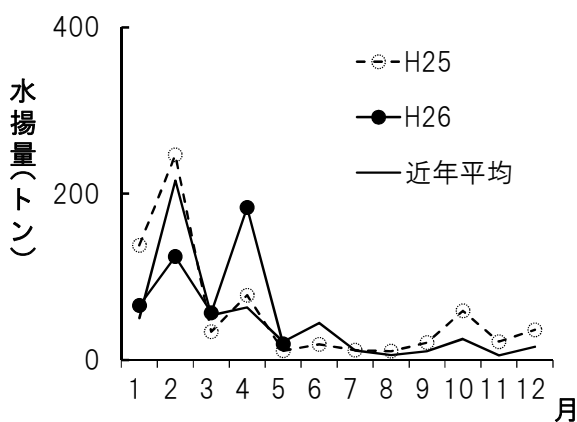


図1 主要3港(浜田、恵曇、西郷)におけるスルメイカの水揚動向(浜田、恵曇は属地統計値、西郷は属人統計値)

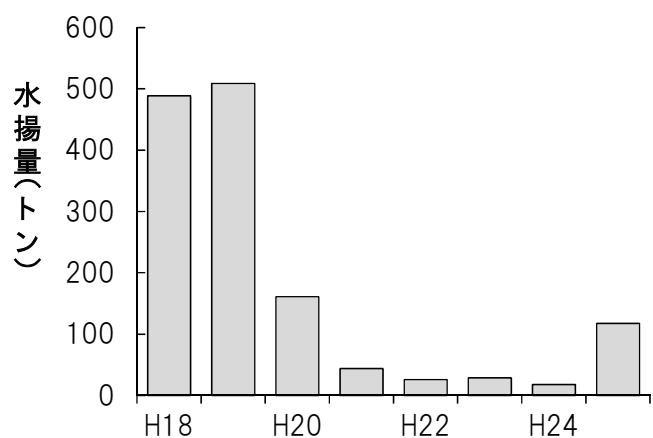


図2 主要3港(浜田、恵曇、西郷)における10月～12月のスルメイカの年別水揚動向(浜田、恵曇は属地統計値、西郷は属人統計値)